

5-8

演題 コロナ禍での食事・おやつレクの取り組み

副題 ～コロナ禍でもおいしく、楽しく～

コロナ禍

食事レク

法人名 社会福祉法人 昂

施設名 すずかけの郷

発表者名 森永 愛
(職種) 栄養士

共同発表者

共同発表者

共同発表者

共同発表者

都道府県 神奈川県

住所 横浜市港南区野庭町 1688 番地

TEL 045-848-1165

FAX 045-848-1166

メールアドレス suzukake.sv@subaru-fukushi.or.jp

URL <https://www.subaru-fukushi.or.jp/facility/suzukake/>

今回の発表施設 またはサービスの 概要

特養は定員 120 名、本入所 112 名、平均介護度 4.24、併設のデイサービスセンターの定員 40 名、平均介護度 2.46。特養入居者の約 4 割は常菜・一口大、約 6 割はやわらか・キザミ
とろみ・ソフト・ミキサー・ゼリーといった嚥下調整食を提供している。

研究の目的、PR ポイント

コロナ禍で外出や面会の制限がある状況の中、入居者、デイサービス利用者にとって食事やおやつは楽しみの 1 つである。すずかけの郷では、すずかけレストラン・やわらかレストラン、出前クラブ、喫茶、デイサービスの手作りおやつ等の食事・おやつレクを行っている。

研究目的・PR ポイント

2022 年 2 月、2022 年 11 月に新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、食事・おやつレクを一旦中止したが、2022 年 5 月、2023 年 1 月から再開した取り組みについて報告する。

取り組んだ課題

飲食時の感染・集団感染が危惧される新型コロナウイルス感染症ではあるが、クラスターの発生により一度は中止した食事・おやつレクを再開するために検討を行った。

具体的な取り組み

食事・おやつレクに係る取り組みとして下記を行った。

- 異なる階の利用者が交わらないよう日程を分ける。
- 会場は会議室で行い、食席は間隔を空け、同じ方向を向いて食べる。
- 職員も一緒に食事をし、一部介助やコミュニケーションをとる。
- 喫茶はボランティアを招かず、栄養課以外の部署も連携して行う。
- 手作りおやつは手指消毒を行い、手袋を着用する。
- 写真を撮り、インスタグラムに投稿、施設内の掲示板に掲示し、家族、職員、関係者等に見てもらう。

活動の成果と評価

- 2022 年 11 月のクラスター発生以降左記の取り組みにより、現在までコロナ感染症者の発生なく利用者は生活している。
- 食事・おやつレクを再開したことで、日常の食事

とは違った、食べることへの意欲の向上が見られる結果となった。

- 職員も共に食事をし、会話を楽しんでいただけた。
- インスタグラムへの投稿を行うことで、家族から閲覧して状況を知ることができて安心したというお声を頂いている。
- 喫茶は、介護課・相談課・看護課・事務部にも参加してもらうことで、安全に行うことができた。
- 認知症などで、食事・おやつレクに参加したことや食べたことを忘れてしまうこともあるが、利用者から「おいしかった」「楽しかった」「嬉しかった」という気持ちが残っていると考えられる。
- 食事・おやつレクを再開し、再び施設入居者、デイ利用者の笑顔が戻ったことは、管理栄養士として、「おいしく」「楽しく」「安全に」食事ができるよう日々サポートすることへの意識向上につながった。
- 各部署(介護課・相談課・看護課・事務部)との協力体制が構築でき、施設において気軽に話し合いや相談がしやすい状況となり、管理栄養士としての業務にプラスの結果をもたらしていると思われた。

今後の課題

コロナ禍でも施設入居者、デイ利用者の笑顔で楽しい時間が増えるよう、今後も感染対策に留意し、各部署と連携して、食事・おやつレクを行っていききたい。